

長い間、地元の人によって里山の木は炭や薪に、谷戸は田んぼや畑として利用されていましたが、昭和40年代以降社会の変化と共に使われなくなりました。

昭和30年代までこのような所にはたくさんの種類の生き物が生息し、生物多様性に富んだところでした。

人の手が入らなくなってやや少なくなったものの、ここには今では珍しくなった貴重な生き物がいろいろいます。

2015年、神奈川県自然保護協会が選ぶ県内生物多様性ホットスポットとして選定されました。

あつぎこどもの森公園憲章

私たち厚木市民は、「あつぎこどもの森公園」において、多くの生き物に恵まれた自然環境や里山の文化などの資源を守り、いかしながら、遊んで学んで元気になれる自然体験活動を通じてたくましい子どもたちを育てる取組を推進するため、この憲章を定めます。

- ・ 私たちは、厚木市の生き物にとって重要な場所である「あつぎこどもの森公園」の自然環境を守り、育て、その大切さを伝えます。
- ・ 私たちは、里山の自然環境の特性をいかした様々な体験の機会を子どもたちに提供し、生きる力を育みます。
- ・ 私たちは、里山で継承されてきた農業や暮らしの知恵を伝承し、新たな里山の文化を育てます。

制作 ©あつぎこどもの森クラブ自然プロジェクトグループ 通巻64号

写真 吉田文雄・ナカノジュンゴ・青砥航次

連絡先 あつぎこどもの森公園管理棟 046-210-3433

E-mail atugikodomonomorikurabu@gmail.com

HP: <https://atsugikodomonomori.com/>

冬の野鳥

2022年1月15日(土)



アオジ (漂鳥)

吉田文雄

主催 あつぎこどもの森クラブ

冬にいる野鳥

雑木林は落葉樹が多く、木々が葉を落とした冬は林内の見通しが良く、野鳥が見やすい季節です。

こどもの森で冬に見られる鳥には、一年中いる鳥・・・留鳥
山の高いところから降りてきたり、北の地方からやってくるもの・・・漂鳥
シベリアなど北極に近い地方からやってくるもの・・・渡り鳥
が見られます。

渡り鳥



タシギ

ハクチョウやガン・カモの仲間が多いのですが、小鳥でも、この辺りではジョウビタキやツグミなどが見られます。また荻野川ではタシギが見られることもあります。



ジョウビタキ ♂

漂鳥

カケスは、丹沢など近くの山にいる鳥ですが、冬になるとこどもの森公園でも見られます。



イソシギ

ヒヨドリや荻野川で見られるイソシギは一年中いるように見えますが、秋から冬にかけて数が増えます。

津軽海峡などでは、秋に北海道から本州に渡るヒヨドリの群がよく見られるそうです。



カケス



ヒヨドリ

留鳥



モズ ♀

モズ 9月になるとけたたましく鳴く、高鳴きをします。

メスは腹部に波模様があります。

ハヤニエは、えさの貯蔵だと言われています。



モズ ♂



ヤマガラ

ヤマガラ 冬にメジロやシジュウカラ、エナガ、コゲラなどと混ざって行動する群、混群を作ります。集団でいると、えさを探すのにも敵から身を守るのにも有利だと考えられています。また、最近の研究でこの群には種を超えた共通の言葉があるのではないかと、言われています。

ハシブトガラス

よく似たカラスにハシブトガラスがいます。くちばしの太さの違いで名付けられたのですが、実際に野外で見分けるときには頭の形や鳴き声に注目すると分かりやすいです。こどもの森作業棟向かいの山で営巣しています。



ハシブトガラス



カワセミ

カワセミ

小魚を餌にしているので荻野川ではよく見られます。

巣は赤土の崖に穴を掘って作ります。こどもの森公園開設前、作業棟のあるところの前の崖に巣を作っていました。今でもその痕跡を見ることができます。

写真のカワセミは♂です。メスは下嘴が赤いので見分けられます。



セグロセキレイ

水辺の鳥です。よく似た種類にハクセキレイがいます。顔の白黒模様で見分けることができます。

神奈川県ではより平地に適応したハクセキレイのほうが多く、やや山地が好きなセグロセキレイは少ないとされています。でも荻野で圧倒的に多いのはセグロセキレイです。

キセキレイ

セグロセキレイより更に溪流を好むのはキセキレイです。前の2種より体が細く、歩くときに尾を振るのが特徴です。



スズメ



スズメはどこにもいるように思われていますが、人の生活に依存しているので、人家のないこどもの森公園の中では実は珍しい鳥です。

カワラヒワ

コロコロ コロコロという高い鳴き声の特徴です。カナリヤは仲間なので、そう思って聞くと更に良い声のように思えます。

止まっているときには側面に黄色い模様が見えます。



カワラヒワ

最近のこどもの森公園

変な葉っぱ



左 チャトゲコナジラミ

右 アオキ すず病

植物は本来外敵、寄生などに抵抗力を持っているものですが、何かの原因で元気をなくしているのかも知れません。

今問題のナラ枯れも若い木は樹液を出して抵抗しているので枯れるのは老木が多いのです。



いろいろ



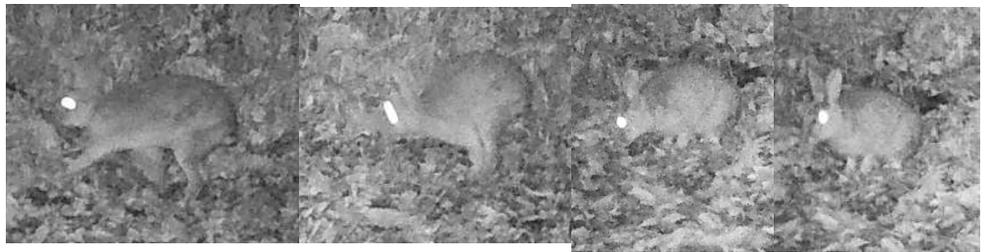
キウメノキ
ゴケ
マツゲゴケ
おもしろい卵



コナラの冬芽に産卵するタマバチの一種。産卵されると虫こぶができ、その中で幼虫が育ちます。

センサーカメラがとらえた画像

12月14日から16日にかけて写ったノウサギ



活動の記録

落ち葉かき

1月10日、雑木林などの落ち葉かきをしました。

参加者は水辺の生き物調査隊中心に集まりました。

冒険の森、作業棟周辺、ため池上、弁天山の4箇所です。体力に応じて分担しました。

昔は掻いた落ち葉を竹かごに入れて運んだということです。



その実物を井上さんが持って来てくれました。

大きいので子どもには使うのが難しかったようです。

山の上の落ち葉は、小枝が入らないように選別して袋にい入れ下に下りました。



終わってから、スタッフがかまどで炊いて作ってくれた七草がゆを食べました。

プラごみを出さないために、参加者にはあらかじめ食器を持ってくるように伝えてありましたが、忘れた人のために竹を切って作ったカップと箸も用意しましたが、忘れた人はいませんでした。上の写真は試しに竹のカップと箸を使っているところです。



傾斜地の危険防止という名目でナラ枯れ木の伐採をします

1月14日、業者による現地下見がありました。一部、ミズキなどの木も含まれるようです。

国から多額の補助金が出ているようで2月末まで作業が行われます。

こどもの森ガイドウオーク（自然観察）原則毎月第3土曜日

ガイドウオークはコロナの蔓延期間中定員20名にしています。原則事前申し込み制で、定員に空きがある場合は当日参加もできます。会員に限らず誰でも申し込みます。

管理棟集合 参加無料どなたでも参加できます。 開始時間要確認

2022年		6月18日	木に咲く花
1月15日	冬の野鳥	7月16日	樹液の酒場
2月26日	冬芽の観察 次回	8月20日	水辺の生き物
3月19日	春の兆し	9月17日	谷戸のシダ
4月16日	スミシの秘密	10月15日	秋の花
5月21日	キアシドクガ	11月19日	木の実・草の実・キノコ
	一手ずりの上のドラマー	12月17日	生き物の冬越し

水辺の生き物調査隊（申し込み制 年間メンバー固定）

- 4月11日 こどもの森公園と水生生物について
- 5月16日 両生類～カエル・イモリについて
- 6月20日 ホタルについて
- 7月19日 水生カメムシについて
- 8月1日 トンボについて
- 9月5日 河川調査について
- 10月3日 外来生物について
- 11月7日 ホトケドジョウについて
- 12月4日 冬の生き物の過ごし方
- 1月10日 落ち葉かき・カブトムシ増やし
- 2月6日 トンボの幼虫を絵に描こう 次回
- 3月6日 ヤマアカガエルについて

新型コロナウイルスの蔓延状況により中止の場合があります。

植物モニタリング

原則毎月第2金曜日（4月以降木曜日）の9：30から 決まったコースを歩いて出現する植物を記録します。植物を覚えたい方により機会です。会員対象

草木染め勉強会

園内にある植物を使って草木染めをいろいろ試してみようという会です。毎月第3金曜日午前中に行っています。会員対象です。（入会はいつでも受付けています）

こどもの森探検隊

東京農大学生による生き物調べお手伝い 第1、第3日曜午後 1月は事情により16日（日）の1回だけです。